

# 「チャレンジサマーキャンプ in ASO」事業報告書

企画指導専門職 山下 正晃

## 1 事業の概要

- (1) 趣 旨 子供たちがたくましく生きる力をはぐくむために、キャンプや沢登りなどの自然体験や調理体験などの多様な体験をさせるとともに、集団宿泊体験を通して、規則正しい生活習慣や自立する力、困難を克服する力を身に付けさせる。
- (2) 期 日 平成30年8月13日(月)～8月15日(水) 2泊3日
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家 国造神社・宮川(沢登り)
- (4) 参加者 29名(児童養護施設に入所している児童・生徒21名、施設職員8名)
- (5) 講 師 立川 浩司 氏(研修指導員) 前田 崇徳 氏(研修指導員)
- (6) 担当職員 山下 正晃(企画指導専門職) 尾家 義隆(企画指導専門職)  
松元 延行(事業推進係長) 萱野 太一(事業推進係員)  
宇戸口 健(事業支援室係員)
- (7) 内 容  
【1日目】・開会式 ・テント設営 ・野外調理  
【2日目】・野外調理 ・沢登り、沢遊び ・スモアバーベキュー ・花火  
【3日目】・テント片付け ・閉会式

## 2 成果と課題

- (1) 成 果
  - 「ツリーイングでは日ごろ登れない木に登れたので良かったです。」「スモアバーベキューや花火はとても楽しくて思い出に残りました。」「小さい時からテントで寝てみたいと思っていました。その夢がかなってうれしかったです。」「沢登りは冷たくて、流れが速くてきつかったけれど、登れたのでうれしかったです。またしたいです。」などの感想が多数みられ、キャンプ生活や自然体験活動が参加者にとって印象に残る体験となった。また、参加者が困難な活動においても前向きにチャレンジをすることができ、達成感や充実感を味わうことのできる活動となった。
  - 調理体験では、「みんなと協力して野菜を切ったりしながら調理したのが楽しかったです。」との感想もあり、仲間と協力しながら最後まで活動することができた。また、3回の調理を行い、手際よく調理ができるようになっていった。
  - 「ボランティアの皆さんや職員の皆さんとこんなにお話しして、仲良くできるとは思いませんでした。」との声が聞かれた。交流の家職員、ボランティアも含め様々な立場の人との交流が貴重な体験になったと感じた参加者も見られた。
  - 「草原で星空を見ながらの振り返りが心に残りました。」との感想が多数みられた。阿蘇の自然を感じることができる環境が、個々の振り返りの充実に効果的だった。
- (2) 課 題
  - 交流の家職員と施設職員、ボランティアを含め、のスタッフ間の役割分担が不明瞭な部分があった。今後、より安全に充実した活動を参加者に体験してもらうためにも、両施設職員とボランティアによる事前打ち合わせを、より入念に行う必要がある。
  - 沢登り、ツリーイングの活動を実施したが、参加者の体力差があり、かなり疲れた様子も見られた。参加者の体力に合わせた活動が選択できるようなプログラムも検討していきたい。